

## 「私が示す地に行きなさい」

2020年11月25日

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ／私が示す地に行きなさい。私はあなたを大いなる国民とし祝福し／あなたの名を大いなるものとする」（創世記12章1節～2節）アブラムは主が告げられたとおりに出かけて行った。ロトも一緒に行った。アブラムがハランを出たとき七十五歳であった。（創世記12章4節）

ノアから九代目のテラは、アブラム、ナホル、ハランをもうけた。ハランはロトをもうけ、ウルで死んだ。アブラムはサライという名の妻をめとった。彼女は不妊の女で、子どもがなかった。テラー族はウルを出発し、ハランまで来て、ハランでテラは死んだ。

時に、神はアブラムに言われた。「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ／私が示す地に行きなさい。私はあなたを大いなる国民とし祝福し／あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福の基となる。あなたを祝福する人を私は祝福し／あなたを呪う人を私は呪う。地上のすべての氏族は／あなたによって祝福される。」（創世記12章2、3節）神はアブラムに三つのことを語っている。① 親族、父の家を離れ、神が示す土地に行きなさい。② アブラムを大いなる国民とし、アブラムの名を大いなるものとする。③ アブラムを祝福する者を神は祝福し、アブラムを呪う者を神が呪う、祝福の基にする。神はアブラムを選び、神のみ旨を現すために召し出したのである。

預言者イザヤは、「誰を遣わそうか。誰が私たちのために行ってくれるだろうか」という神の声を聞いた時、「ここに私がおります。私をお遣わしてください」と応えている。新約聖書では、主イエスがシモン（ペトロ）と兄弟アンデレに「私に付いて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と招かれた時、「二人はすぐに網を捨てて従った」と応じている。彼らは、神からの召し出しを受け、これに応え、神の御業を現す者とされた。この召し出しを「召命」と言っている。アブラムも、そのような召命を受けたのである。この時、「アブラムは主が告げられたとおりに出かけて行った。ロトも一緒に行った。アブラムがハランを出たとき七十五歳であった。」アブラムは妻サライと甥のロトを連れ、ハランで蓄えた財産と僕たちを携え、ハランからカナンに向けて出発した。このアブラムの出発を、ヘブライ書11章8節で、「信仰によって、アブラムは、自分が受け継ぐことになる土地に出て行くように召されたとき、これに従い、行く先を知らずに出て行きました」と書いている。アブラムは75歳であったと記されている。彼は175歳で亡くなっている。100歳まで生きる現代人に換算すると、約43歳に相当する。アブラムは、それなりの人生体験を積み、それなりの財産を所有した大人であった。ハランはメソポタミア北西部、ユーフラテス川の東にある隊商が行き来する栄えた商業都市であった。ここに留まれば、安定した生活を営むことができた。それを振り切って、なぜカナンに向かったのか。豊かなハランに留まったら魂が腐る、真実を知り、真実に生きたいという思いがアブラムを動かしたのではないか。激しい内的促しを受けたに違いない。真実とは全存在をかけて信じ、従うことのできるもので、アブラムは、それを求めて旅立ったのではないか。アブラムの生涯は、この視点から読み解くことができる。

カナンのシェケムのモレの樫の木の下で、「私はあなたの子孫にこの土地を与える」という声を聞いた。アブラムは自分に現れた神のために祭壇を築いた。更に、ベテルの東の山地に移り、天幕を張り、主のために祭壇を築き、主の名を呼んだ。アベルの代わりに与えられたセトの頃、主の名を呼び始めたが、アブラムはこの信仰を継承したのである。